

「読むこと」に関する問題

年

組

番

氏名

◇ 村田さんのクラスでは、新美南吉にいみなきちの作品を読み合い、その作品のよさを紹介する活動を計画しています。村田さんのグループは『あめだま』という作品についてクラスのみんなに伝えることにしました。

春のあたたかい日のこと、わたし舟にふたりの小さな子どもをつれた女の旅人がのりました。舟が出ようとすると、「おおい、ちよつとまっつてくれ。」

と、どてのむこうから手をふりながら、さむらいがひとり走ってきて、舟に飛びこみました。舟は出ました。

さむらいは舟のまん中にどっかかりすわっていました。ぽかぽかあたたかいので、そのうちにいねむりははじめました。

黒いひげをはやして、強そうなさむらいが、こつくりこつくりするので、子どもたちはおかしくて、ふふふとわらいました。

おかあさんは口に指をあてて、

「だまっつておいで。」

といいました。さむらいがおこつてはたいへんだからです。

子どもたちはだまりました。

しばらくするとひとりの子どもが、

「かアちゃん、あめだまちようだい。」

と手をさししました。

すると、もうひとりの子どもも、

「かアちゃん、あたしにも。」

といいました。

おかあさんはふところから、紙のふくろをとりだしました。ところが、あめだまはもう一つしかありませんでした。

「あたしにちようだい。」

「あたしにちようだい。」

ふたりの子どもは、両方からせがみしました。あめだまは一つしかないのです、おかあさんはこまっつてしまいました。

「いい子たちだからまっつておいで。むこ

うへついたら買ってあげるからね。」

といつてきかせても、子どもたちは、ちよだいよオ、ちようだいよオ、とだだをこねました。

いねむりをしていたはずのさむらいは、ぱつちり目をあけて、子どもたちがせがむのを見ていました。

おかあさんはおどろきました。いねむりをじゃまされたので、このおさむらいはおこっているのにちがいない、と思いました。「おとなしくしておいで。」

と、おかあさんは子どもたちをなだめました。けれども子どもたちはききません。

するとさむらいが、すらりとかたなをぬいて、おかあさんと子どもたちのまえにやつてきました。

おかあさんはまっさおになって、子どもたちをかばいました。いねむりのじゃまをした子どもたちを、さむらいがア

と思つたのです。

「あめだまをだせ。」

とさむらいはいいました。

おかあさんはおそるおそるあめだまをさしだしました。

そして

「そオれ。」

とふたりの子どもにイ

① それから、またもとのところに帰って、

こつくりこつくりいねむりはじめました。

【『あめだま』新美南吉】

(二) 文中の **ア**、**イ** には、それぞれのどのような言葉が入るでしょう。正しいと思う組み合わせを一つ選びましょう。

- | | | | |
|-------|--------|---|----------|
| () ア | しかりつける | イ | ほめてやりました |
| () ア | 切りころす | イ | わけてやりました |
| () ア | 切りころす | イ | なげつけました |
| () ア | ほめる | イ | 買ってやりました |

(二) 村田さんたちは、次のように発表の原こうを作っています。

この話のおもしろさは、二つ考えられます。

一つ目は、母親の緊張感きんちようかんが高まっていく様子から、最後の場面で一
気にどんでん返しがあるとことだと思えます。

二つ目は、かたなを持ったこわそうなおさむらいが、ゆかいにえが
かれているところです。このゆかいなえがかれ方が、新美南吉らしい
ほのぼのとした作品のふんい気につながっていると感じました。

○ 本文中の①——は、原こうの中の 一つ目 二つ目 のどちらのおもしろさにかかわりがありますか。 に書きましょう。

① それから、またもとのところ
ろに帰って、こつくりこつくり
ねむりはじめました。

一つ目のおもしろさ

○ 新美南吉は、四年生で学習した『ごんぎつね』の作者でもあるので、読み比べてみました。そして原こうに次の文も入れようと思いました。次の文は、一つ目 二つ目 のどちらに入りますか。 に書きましょう。

『ごんぎつね』の中で、最後にごんがうなずいた場面と似ています。

一つ目

【解答例と解説】

(二) 解答は ア きりころす イ わけてやりました の組み合わせです。

ア の前におかあさんが「まっさおになって、こどもたちをかばいました」と書いてあります。「まっさお」になって「かばう」という動作は、こどもに危険がせまっているからに他なりません。考えられる危険は、「斬り殺」されることでしょう。

イ は、「そおれ。」という言葉は、「ほめてや」る、「なげつけ」るときのことばとしてはふさわしくないものです。「買ってや」るのは舟の上なので無理です。したがって、こわいさむらいが、おそろしいかたなでしてやったことはきちんと二つに「わけてや」った、ということでしょう。

(二) ○ 二 つ目のおもしろさ です。

おかあさんはじめ、周囲のひとたちはおさむらいをこわく感じていたことでしょう。このおさむらいが、かたなをすらりと抜き、ふたりにあめをわけてつけたあと、つまり周囲をふるえあがらせたあと、またこっくりこっくりねむりはじめた様子は、間が抜けているでしょう。このゆかいさを取り上げています。

○ 解答は、一 つ目 です。

『あめだま』は、最後の最後に緊張がとけ、和やかにお話が終わります。一方『ごんぎつね』は、ごんを鉄砲で撃った兵十が、くりなどをもってきたのがごんだと最後の最後に知る、というなんとも切ない終末です。どちらも、最後に読者をゆさぶる大きなどんでん返しが仕組まれているのです。一方は和やかな終わり方でもう一方は悲しい結末というちがいはありますが、最後の場面で一気にどんでん返しがくるという点では二つのお話は似ているといえそうです。